

町雑誌

千住

SENJI

日之出 駿

保育版

VOL.1

Machi Zasshi Senju

千住探険

掃部宿

PART 1

■新連載■

特集 ■

粹な男女の千住の祭

PART 1

千住明治の女伝
千住昔話

額価二百四



町雑誌千住の気持ち

赤ちゃんも小学生も女子高生も働くおとなも主婦も
おじいちゃんも、
東北人も関西人もウチナンチユウも外国人もジモテイも

あきんどもサラリーマンも社長も先生も職人もアーティストも、
ノラ猫軍団も、

あきんどもサラリーマンも社長も先生も職人もアーティストも、
みんなみんな元気な町なんだな、千住って。

近ごろ若い夫婦ばかりの町や老人ばかりの町、

若者しかいない町などたよった町の多い中、
色々な人たちがまんべんなく生きてる、すごくあたりまえな日本の町千住。

江戸ところばらいの町だよ、ハッハッ、と江戸を笑い飛ばすおらかさ。
他とは違う伝統ある下町なんだ、なんて偉ぶつたりもしないナチュラルさ

そのくせ「ところばらい」なんていわれた遠い時代から密かに文化を蓄えて、
古いものと新しいもの、どちらもちゃんともつたいい味だしてる町になつた

わたしたち、千住・町・元気・探険隊が、千住の町を探険し、その様子を皆さんにお伝えしながら、
町をもつともつと元気にしていくこうと始めた活動の中で「町雑誌千住」は生まれました。

創刊号を出すにあたっては、どれほど多くの方々のお力を借り、やさしいお言葉と
お気持をいたいたことか、本当にお礼の言いようもありません。

皆さんからいたいたい元気をもとに出発します！

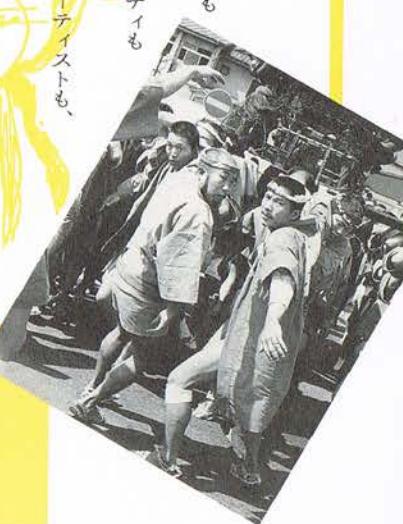
これからもどうぞよろしくお願いします。

データは1996年
9月現在のものです。

- ① 松木智美さん（千住東睦会・24才）この季節は毎週かつて回っています。男氣ある恋人募集中！
- ② 内田恵美さん（大川西睦鳳会・26才）本格的に始めたのは2年前だけど、祭となれば血が騒ぐ。
- ③ 小川ひろみさん（旭睦会／旭町南町会・25才）と大内りえ子ちゃん（同・9才）旭町の、通称「お祭り横丁」に住む。祭大好き人間ばかり集まつていて、とても楽しい！
- ④ 加藤香澄さん（緑町町会・27才）千住で水掛け祭、やつてみたいな。お酒でもいいけど（笑）。
- ⑤ 片岡悠さん（日ノ出町町会・12才）手古舞はやつたが、神輿はまだチャンスがないんです。
- ⑥ 佐田麻衣子さん（大川南睦司・15才）神輿は大好きです。お祭の数がもっと増えればいいな。

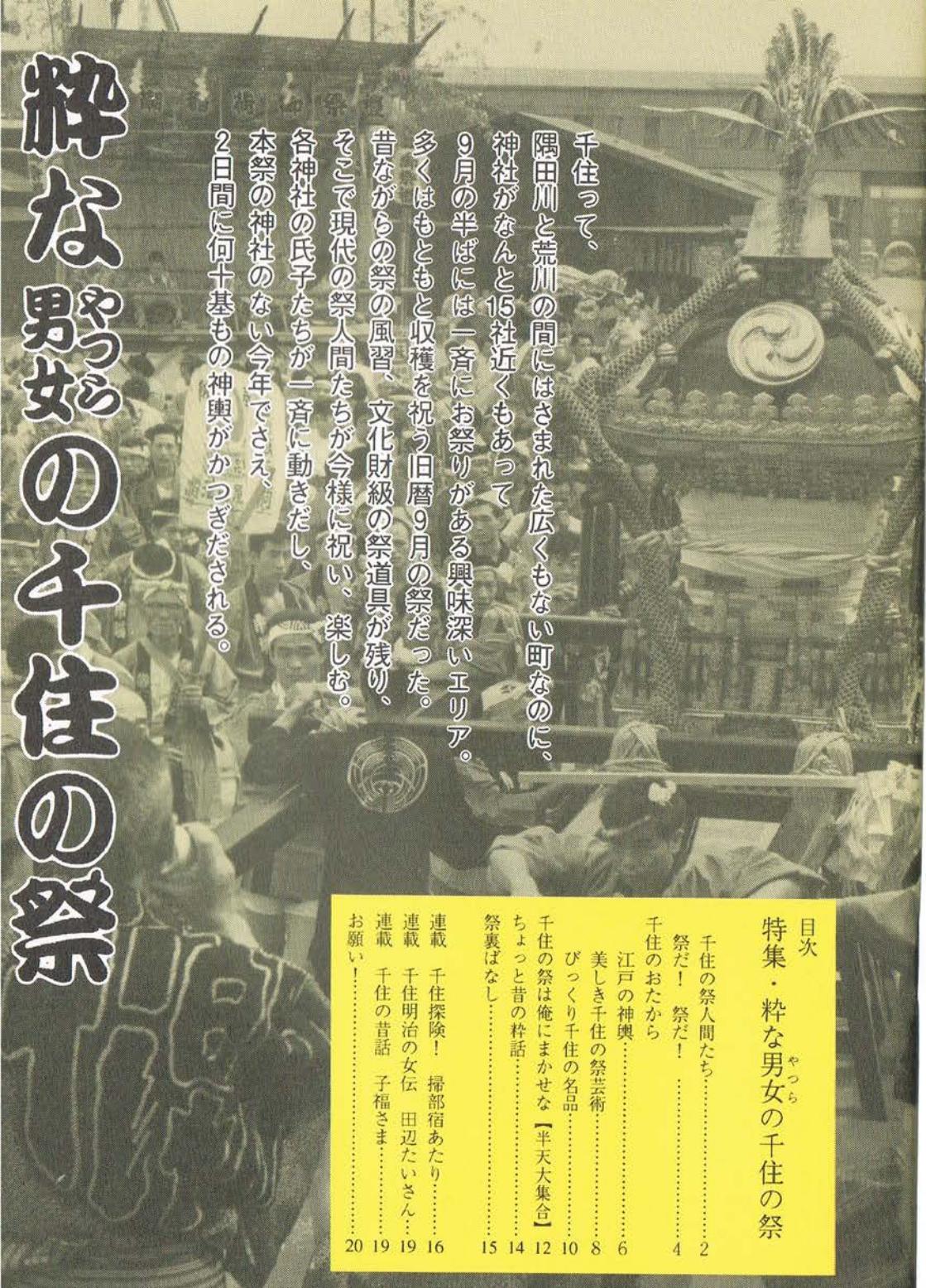


千住あれこれ
なぜ千住は「せんじ」と呼ぶ人も多いの? なぜ「SENJI」という字が氣がいいのか?
「せんじ」と「せんじ」、あなたはどちらが好き?



特集・粋な男女の千住の祭	
目次	
千住の祭人間たち	2
祭だ！ 祭だ！	4
千住のおたから	
江戸の神輿	6
美しき千住の祭芸術	8
びっくり千住の名品	10
千住の祭は俺にまかせな【半天大集合】	12
ちょっと昔の粋話	14
祭裏ばなし	15
連載 千住探険！ 掃部宿あたり	16
連載 千住明治の女伝 田辺たいさん	19
連載 千住の昔話 子福さま	19
お願い！	
20 19	

粋な男女の千住の祭



千住って。

隅田川と荒川の間にはさまれた広くもない町なのに、
神社がなんと15社近くもあって

9月の半ばには一斉にお祭りがある興味深いエリア。

多くはもともと収穫を祝う旧暦9月の祭だった。

昔ながらの祭の風習、文化財級の祭道具が残り、
そこで現代の祭人間たちが今様に祝い、楽しむ。

各神社の氏子たちが一斉に動きだし、

本祭の神社のない今年でさえ、
2日間に何十基もの神輿がかづぎだされる。

まつり人間たち



を作った。やんちゃ盛りの仲間たちは三社祭りでおばけ半天（町会の半天をまねて作ったニセの半天）を作つてかつぎ、見つかってこれまた没収。むむ、没収づいてる。三社をかつぎたがる人が増え、神輿の宮出しにワッペンが必要になった年には、「みんなで夜集まって相談してね、いも判でワッペンを作っちゃいました」！さすが八百屋の会。

小なかわ少年達のように、後から後から次の手を考え、しかしそこまでして「かつぎたかった」。

近年は、踊りとシルバーシート

（後棒の端っこ専門だそうで、自

由奔放に祭を楽しんでいる様模。何

より、「楽しさ」祭ができるの

は、年季の入ったまつり人間ならではの余裕だと思えた。

「今年は半天

の下は白で揃えたんだ」と広げたダボシャツの背には、金糸

で一面に縫い取られた鳳の一文字。化粧回し

のような風格。重そうだ。半天で隠れる背に、



「かつぐときは飲まないというのも風会の決まり」と理由は会長が飲めないからなんだけれどね（笑）

物事をやり抜く根気と義理堅さが身に付いたと

いう内田さん。

今年は半天と一緒に引き継いだ

心意気を見せて

くれることだろ

を作った。やんちゃ盛りの仲間たち

は三社祭りでおばけ半天（町会の半天をまねて作ったニセの半天）を作

つてかつぎ、見つかってこれまた没

収。むむ、没収づいてる。三社をか

つぎたがる人が増え、神輿の宮出し

にワッペンが必要になった年には、

「みんなで夜集まって相談してね、いも判でワッペンを作っちゃいました」！さすが八百屋の会。

小なかわ少年達のように、後から後から次の手を考え、しかしそこまでして「かつぎたかった」。

近年は、踊りとシルバーシート

（後棒の端っこ専門だそうで、自

由奔放に祭を楽しんでいる様模。何

より、「楽しさ」祭ができるの

は、年季の入ったまつり人間ならではの余裕だと思えた。

ブランドものより祭よね！

千住大川町 内田恵美さん

こんな粹を背負い込んでいようとは。

半天は祭人の魂そのものだという。彼女が所属する風会にも半天の貸し借りはいけない、テレビ

雑誌に半天姿をムダにさらさないという御法度がある。魂を簡単に扱うなということだろう。

今年は大切な半天を譲り受けた。スナックのオ

ーナーでこれまで熱い血を持つ祭人間の田島さん

の親父様が、去年亡くなるまで

20年間着続けた大切な形見の半天だ。

祭りを通して

根気と義理堅さ

が身に付いたと

いう内田さん。

今年は半天と一緒に

引き継いだ

心意気を見せて

くれることだろ

今年は見たい！

踊るかつぎ屋

千住東二丁目 横田清重さん

とにかくおかしい

横田さんを紹介してくれた町の人たちが思い出すかのようにクスクス笑う。棒の下に肩を入れ、グイッと持ち上げるまではなかなかの男っぴりなのに、のつてくると踊り始めるのだという。本人に会つてみると始終ニコニコ明るく、従来のまつり男たちとはどうも毛色が違う。

「大先輩の血矢さんの会で、酒飲んでかついで、半天没収されちゃつてね」それが20才の頃。当時は酒蔵禁の会も多かつた。でもやっぱりかぎたくて、八百屋の仲間で「剣睦」

「本気でかつぐなら独りで行けと言われます」親父さんに言われ、孝治さんは東京のあちこちの祭へ独りで出かけた。「すごく怖いです」：バチバチやられて殴られて、それでだんだん強くなつてくるのだという。はな棒など、イイトコをかつぐコツは？ と聞くと、

「しつこさでしょ」怒鳴られても殴られても

入つっていく。「もちろん肩が弱いようじや入つ

ても仕方ないです」入つて交替もせずずっと

かついでいる若いのを見ると、無口な親父さん

も「あのやろう、根性あるな」ともらすという。

戦う祭、
楽しむ祭

千住二丁目 長谷正治さん

孝治さん

「本気でかつぐなら独りで行けと言われます」親父さんに言われ、孝治さんは東京のあちこちの祭へ独りで出かけた。「すごく怖いです」：バチバチやられて殴られて、それでだんだん強くなつてくるのだという。はな棒など、イイトコをかつぐコツは？ と聞くと、

「しつこさでしょ」怒鳴られても殴られても

入つっていく。「もちろん肩が弱いようじや入つ

ても仕方ないです」入つて交替もせずずっと

かついでいる若いのを見ると、無口な親父さん

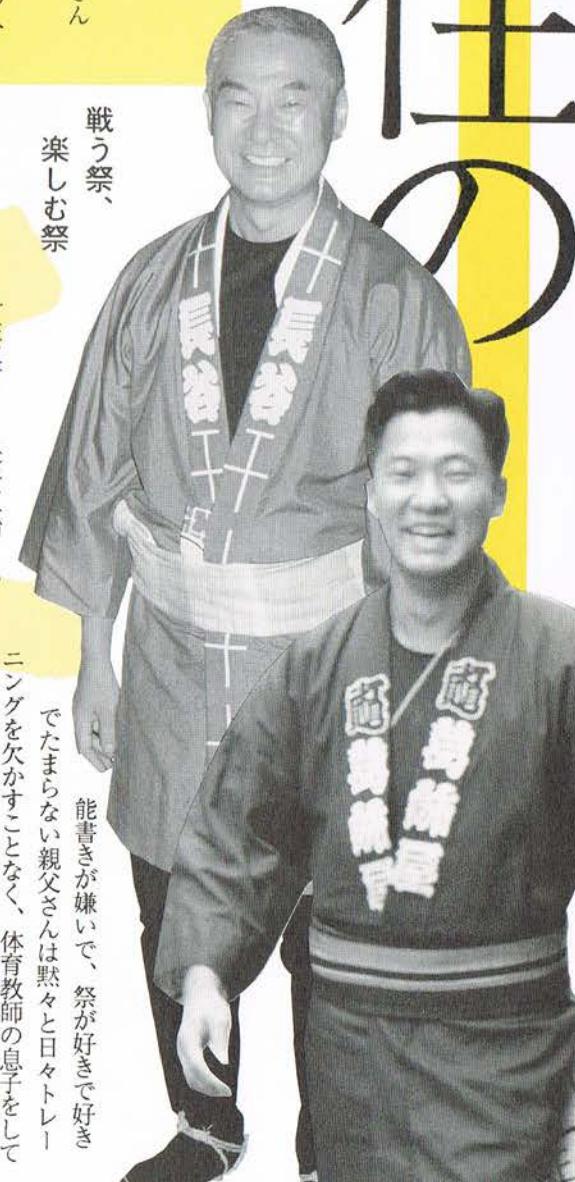
も「あのやろう、根性あるな」ともらすという。

能書きが嫌いで、祭が好きで好きでたまらない親父さんは日々トレーニングを欠かすことなく、体育教師の息子をして

ニンゲンに肩はかなわない」と言わせる。

ところがこの親子、千住町内の祭になるとこの恐ろしげな「戦う祭」がガラリと変わつて「みんなが楽しめる祭」のための世話役に一転するらしい。祭の後、旧日光街道に面した千住二丁目の長谷家の脇の路地に座り込んでビールをあおる、大勢の楽しげな打ち上げ風景に出会つてうらやましく思つた人は少なくないだろう。

もめ事のないようみんなで楽しくかついで打ち上げるまで、祭を支える裏方は数多いがその苦労は並大抵のものではない。彼らもその中心人物のひとり。こういいいい男たちが千住の祭を作るのだと実感させられた。





■祭ウォッチング■

●ワッショイはどこへ行った?
昔神輿をかつぐかけ声は「和一処」(町内和合)を語源とするとも言われる「ワッショイ」だったが、昨今は「ソイヤ」などが多くなっている。あなたはどっち派?



これがみ住の
祭だ

祭だ



■祭ウォッチング■

●木遣りって何?

木材を引き、送り運ぶ時のかけ声から始まったもの。神輿出陣のときなどに歌われるキリリとした祝い歌で、千住でも大祭のときなどに聞かれる。



■祭ウォッチング■

●直会 (鉢洗いともいう)

祭にたずさわる人が、祭の後で、迎えた神とともにその場で会食することが本来の意味。祭の後の打ち上げには実はそんな意味があったのだ。

「鉢」とはその時の入れ物を指す。「大鉢を神輿に見立てて参加者を一巡させる」という説も。

■祭ウォッチング■

●みこしだこ

かつぎ続いていると肩に大きなコブができる。これもひとつのカツギ屋の黙算! いい男の肩をマークせよ!

千住の おたから

江戸の神輿

江戸末期から、神輿は背が高く、塗りやかざりの凝った個性的なものとして作られるようになつた。その当時の神輿をいくつも残す千住はまさに東京の江戸神輿どころ。今年はかけ祭のため渡御しない神輿も多いが、この機会にのぞきに行つてみよう。一見の価値ありの神輿がぞろぞろ。

千住神社一ノ宮神輿

(文久2年造・台輪121cm)



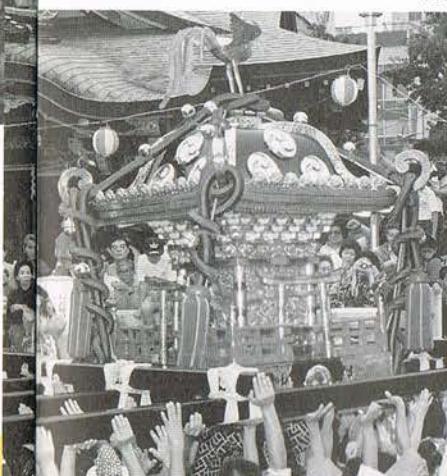
千住神社二ノ宮神輿

(明治18年造・台輪111cm)

銅葺屋根の美しい明治の神輿。「すらりと背の高い、金のかかった神輿。派手で新しい物好きの二丁目らしい」(渡辺宮司様)一ノ宮とは何年も変わらず作られているが、ずいぶん形が違うのが面白い。
※9月14日18時半～渡御。15日は13時～渡御。それ以外は13～15日の間、勝専寺(赤門寺)に飾られる。

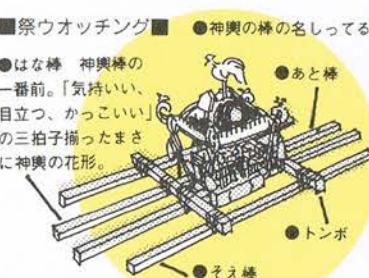
河原町稻荷神社宮神輿

(明治4年/1871年造・台輪122cm)



通称千貫神輿と呼ばれる重い神輿で、やっちゃんのあつた当時は力持ちのかつぎ手がたくさんいて市場内を通り町内を渡御した。江戸の神輿の形式を受け継ぐ豪壮な装飾、細工が美しく、区の文化財にも指定されている。

※今年はかけ祭のため渡御はなし。9月15日AM、同神社に飾られる。



本氷川神社宮神輿

(弘化3年造・台輪3尺4寸)



町の大工棟梁、金幅久次郎の作。日光東照宮の建築にも関与した家筋といわれる。背が高く、また珍しい棒2本で支える二天棒神輿(通常の神輿は4本の棒で支える)なので、渡御では神輿を左右に振る勇壮な姿が見られる。

※9月14日18時半～渡御。15日は12時～渡御。14日夕刻までは同神社に飾られる。

胴の蒔絵、細部の細密な彫刻等、美術的にも価値の高い美しい神輿。江戸中期より前の古典的な様式を残していく貴重。金の部分は、当時の宿場の旦那衆が出した小判をつぶして細工したとか。区の文化財である。

※今年はかけ祭のため渡御はなし。9月14日夕刻と15日終日、同神社に飾られる。

仲町氷川神社宮神輿

(江戸中期/1700年代造・台輪116cm)



江戸末期のかざり神輿では東京でも貴重な傑作のひとつといわれる。大きな神輿なのに、細部に至るまでかざり金具の打ち出し模様など美しく、先端がS字型にまがった勾欄、関西風の古典型的な鳥居などが見もの。

※今年はかけ祭のため渡御はなし。9月14～15日、同神社に飾られる。

五丁目・大川町氷川神社宮神輿

(1800年代造・台輪117cm)



四丁目氷川神社宮神輿

(嘉永7年/1854年造・台輪106cm)

個性的な江戸の大神輿。屋根の「梨地塗り」が美しい。梨地塗りとは吹きつけた金銀の粉が、上塗りの漆を通してボツボツと梨の肌のように見える贅沢なもの。昼間の渡御の時は瓔珞(垂れ飾り)をつけたまま出る。
※9月14日18時半～渡御。それ以外は14～15日、同神社に飾られる。



美しき千住の



9月14~15日終日、柳原神社で奉納される

柳原 箕輪囃子連市村会長に聞く
元禄時代に発祥したといふ箕輪囃子を伝承するグループが柳原にある。箕輪囃子は禄の少ない旗本が糊口を凌ぐための芸能として始まり、神楽専門の奏技術も一線を画するものだという。平たくいえば難しいお囃子で、箕輪囃子がこなせる囃子方（お囃子の奏者）は葛西も神田もすぐに覚えるが、その逆は時間がかかる、と市村さん。一つの編成は五人囃子で、笛、大太鼓、メ太鼓の上と下、鉦五人から成る。中でも主格はメ太鼓の上。笛が奏てる物語を太鼓が受けければちの先で表現する。楽曲は様々だが、静かさと賑やかさが交互に表現された「屋台、昇殿、神田丸、鎌倉、四丁目」を繰り返す五囃子が主流。上がり下がりの調子が苦あれば樂ありの人生を物語る囃子とか。この囃子は他の囃子にもあるが箕輪囃子のオリジナルが「神田丸」に表されるとのこと。また「屋台」では川ちがいといわれるアドリブの掛け合いが聞きどころ。囃子方の力量が試される即興演奏だ。

区の文化財に指定されたときの記念碑が柳原神社にある。記念碑に市村さんの言葉が刻まれている。

囃子は心なり
心正しからざれば
囃子また正しからず
囃子を学ばんと欲すれば
先ず心より学ぶべし

■祭ウォッチング■

●神輿ってそもそも何?

文字どおり「神」の乗る「輿」（乗物）のこと。神輿渡御とは、神様を乗せて日頃は神の行けない氏子町内を一巡することなのだ。だからもちろん町へ出る前に神社では、神を神輿に移す厳嵩な儀式「神輿入れ」が行われている。

●本祭とかけ祭

何年かに一度、神社の宮神輿が町内を渡御する「本祭」が行われる。周期は神社により異なる。本祭でない年をかけ祭といい、その行事の規模も神社、町会による。今年は千住で本祭の神社はないが、宮神輿を渡御せることはある。



柳原箕輪囃子連市村会長に聞く 心を表すお囃子

柳原箕輪囃子連市村会長に聞く



祭芸術 part1

伝統ある祭の神事、芸能が、千住地区には数々残る。

すこーし知つてもつと祭を楽しもう！

雅やかに
おごそかに…

千住神社 浦安の舞



少女達8人がひらひらと華麗に舞う浦安の舞。千住では昭和16年に始まり今日まで受け継がれているが、現在まで続いている神社は全国的に珍しく、一見の価値あり。舞手は千住1丁目の小学生女子から選ばれる習わし。1丁目の女の子、ラッキーだね！

※9月15日10時半～同神社内、13時～と15時～同神社神楽殿で奉納される。



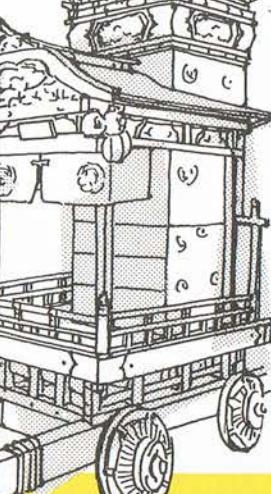
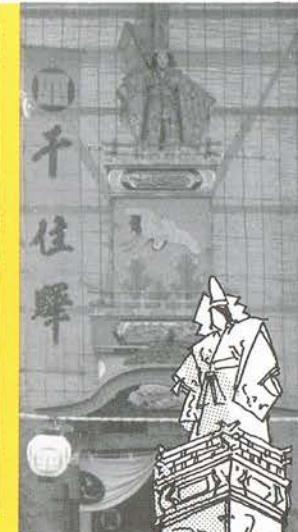
●お江戸の空気がよみがえる！●

大祭の渡御行列（イラストは千住神社）

千住の各神社では、3～5年に一度大祭が行われる。なかでも千住神社、仲町氷川神社、本氷川神社などで今も受け継がれる古式にのっとった渡御行列は、莊嚴で美しく、なかなかお目にかかれぬ魅力あるもの。残念ながら今年は大祭にあたる神社はなく渡御は来年以降だが、これぞお宝。※今年の渡御はなし

千住の
おたから

びっくり千住に残る名品 part1



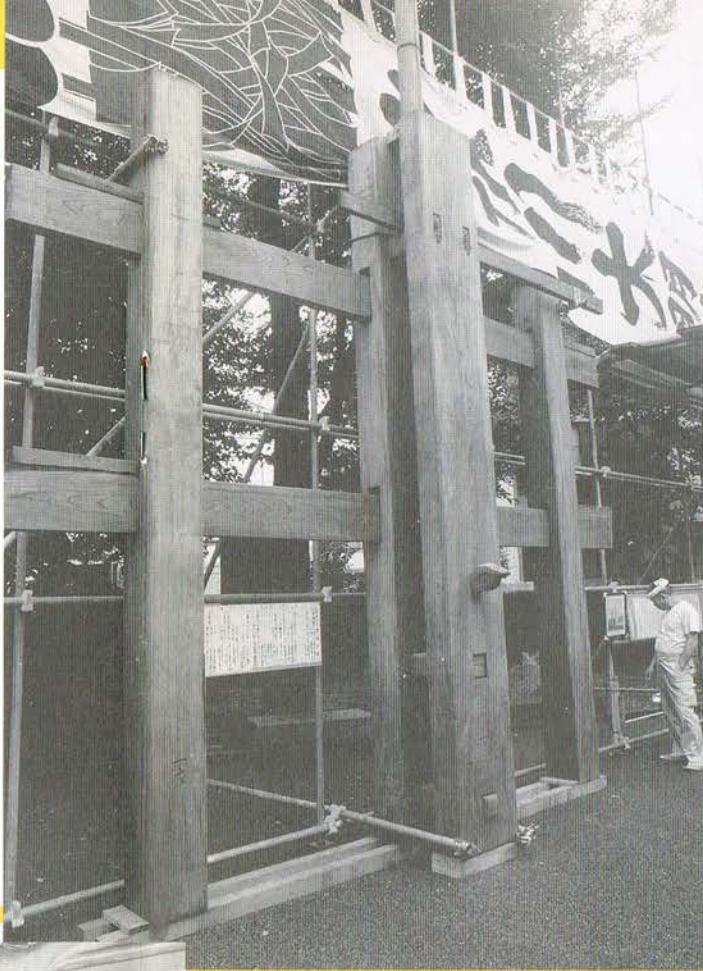
千住に残る うれし珍し江戸型山車

四丁目氷川神社山車

められ、高さが調節できるカラクリを持つ。町の旦那衆ではなく若い衆がこづかいの中から少しづつ金を工面した（これは珍しい！）こと、また、頼んだ名人形師の鼠屋五兵衛が酒代のあるときは働かぬ人だったことから、でき上がるまでに2~30年かかると言われる。

※今年はかけ祭のため町内展示はない

現在足立区立郷土博物館で公開中



おつとびっくり！ハンパじゃない

四丁目氷川神社大のぼり

25間（約14m）もの驚くべき長さで、当時の町の勢いを感じさせる大のぼりが4丁目に2組残る。江戸時代、これほど大きなものが作れたのか？新しい方でさえ250年近くも前のもので宝曆2年（1752年）の表示があるが古い方は不明で、興味をそそられる。人の名と書き印が旗面に見られ、4丁目の人たちが一時ルーツを探っていたが現在も謎のまま。※今年はかけ祭のため町内展示はなし

これはのぼりを立てる台。右側の人の大ささからのぼりの大きさが推測できる。ス・スゴイ！



長八は 千住で恋をした？

橋戸町稻荷神社 伊豆の長八のコテ繪

横1m42cmもあるとても大きな獅子頭が一対、千住神社にある。大正4年に千住一丁目町会有志が、獅子彫の名人、通称獅子徳（塩川徳次郎）に作らせたもの。獅子徳の晩年の作。作品が八分がた出来上がりたとき、ある金のある町会が人を介し手に入つようとしたが獅子徳は「おいらの一生一代のこの獅子を金づくりやあ渡されねえ」と啖呵を切ったという逸話が残る氣骨の入った作。

※9月14日18時半～旧道を練り歩く。

写真は昭和34年。

千住の橋戸稻荷の本殿の扉に、なんとも優しい母ギツネ子ギツネと目もとりりしい雄ギツネがいる。実はこれがかの長八の残した貴重な作品。江戸末期の彫刻家伊豆の長八は、コテを使って漆喰（白壁の塗料）壁に繊細な彫刻を刻み、日本独特の漆喰芸術を生みだした。動物の作品の少ない長八が千住に残したのが愛情あふれる若いめおとギツネとその子供とは、もしや長八は千住で恋をしたのではないかとも、まんざら野暮な憶測でもないかも？扉の開帳9月15日9時～13時半。普段は見れないでのこの機会に：

千住の祭は 僕にまかせな

祭大好き人間の集まる千住の町には、祭を背負う町会、睦の会がいっぱい。皆さんから半天をお借りしました！江戸時代には、火消しもあきんども職人も、半天を見れば職業や屋号までわかつたという、庶民の制服のようなものだった半天は、今では祭の華となりました。色柄とともに百花繚乱。あなたはどれがお気に入りかな？とくとご覧あれ！

助っ人 梅田説祭会 正月にはもちつき、七月には盆踊も	翠鳳会 一町一社なのでまとまりがよく盛り上がる 千住東睦会 三社祭等へ年20数回遠征！	四丁目氷川神社 翠鳳会 一町一社なのでまとまりがよく盛り上がる	千潮金刀比羅宮 足立市場	千住仲町町会
中央睦会 谷団睦会 祭大好き人間が集り作った万灯神輿は絶品	元宿遷稲荷神社 千五睦 夜練習もあり 酒も飲む祭好きの会 千住桜木町町会 来年の本祭を楽しみに！ 鹿浜から太鼓で応援	柳原神社 柳原神社	日ノ出神社 日之出睦 町会主体で神社を守っています	千住間屋町会 千住掃部宿 お神輿好きな方、体験入会してみませんか？
大川町氷川神社 大川西睦鳳会 口では言えぬほど楽しい会！	元宿神社 元宿会 発足当時から20年以上会費は300円のまま！	橋戸町稲荷神社 柳原東町会 柳原西町会 柳原南町会 柳原北町会 橋戸町町会	仲町氷川神社 東一丁目町会	●半天合せ 神輿をかつぐのは氏子ばかりではない。いろんな睦会が集まってひとつの神輿をかつぐ。そこで、当日「かんけーねえヤツがいるぞ！」などともめ事にならないために事前に半天を持ち寄って神輿をかつぐ人を確認する儀式が半天合せ。
千住千成睦 週一度練習しながら町会の祭に参加します	宮元町八幡神社 宮元町会 宮元睦 マンガ神輿が人気！ 千住神社 たつた会 祭がきっかけで地元で結成し、様々に活動中！	柳原東町会 河原町稲荷神社 河原町会	河原町稲荷神社 飛車睦	東二丁目合同祭祀委員会 一町内に2つの神社氏子があり本祭の時は大忙し。
寿町北町会 千住柳祭会 神輿を持って渡米しロスでかついたことも！	千住柳祭会 神輿を持って渡米しロスでかついたことも！	本氷川神社 千住三丁目祭典部 一般参加可、無料貸半纏あり	曙町祭礼委員会 現在はを中心に祭を行っています	旭睦会 (旭町南町会) 細い路地をくまなく渡御。子供、女性が大活躍！



元やつちやばの投げ師
河原町 井出欽三郎さん
(大正2年生まれ)

練習あってこそ。 神輿はきれいにかつげ。

千成睦

東京で一番きれいにかつぐ、
というのは自称である。もちろんコンテストがあるわけでもないのだから一番かどうかは判定できないがかなりのセンなのは確かだろう。

「鳥越の氏子なんですが、助っ人に来てた千成のかつぎを見て男ぼれして入りました。練習は用がないかぎり来てます」(関根さん)数人ずつで息を揃え足を揃え、オイサ、オイサ、とにかくかつぐ。腰を落とさず、休憩知らずでかつぎ続けられる実力はスゴイ!

きれいにかつげるコツは?
と聞くと「やっぱり練習だね」(金子さん)やっぱりそうだったんですか。



仕事を終えてから千住新橋下に集まり大汗を流す



うむ、とうならせられる。素人でここまでできるのか。てっぺんにのっかる鳳凰(ほうおう)とひも、葺返し以外はみんな自分で作つたといふ。屋根の下にずらりと並ぶ何百もの小さな角棒(樹組)が一寸のずれもなくビシッと組みあがつたときには身震いするようないいだつたといふ。

ボイラーハウス、靴職人、木工屋、ガラスの目盛り職人: 金もない、知識もない神輿にはまったくの素人が、手探りでとりかかつた。仕事が終わって夜9時に集まり1時頃まで、毎夜毎夜、片隅の木片一個の形にも妥協を許さず喧々囂々、議論、議論、作つて作つて作つて: 人が人を呼び、心が心を呼び、宮熱が熱を呼び、宮元睦の祭のノリが良いのは祭好きの多いことはもちろん、神輿を通じて仲間の気持がつながっているせいか。会長の宮城さんに聞くと「奥さんたちの陰の理解あってこそですよ」: 心配されるメンバーたちの素顔が見えた。

見事! お見事! 手作り神輿

千住宮元町 宮元睦

神輿を愛し、ビールを愛する男たち。 千五睦

「8、9、10、はい今度は右!」…夜8時、千住五丁目安養院。男たちの声が薄闇の中に響く。ヒンズースクワット、即席みこし筋肉養成マシーン(?)による肩の強化…。和気あいあいと冗談を交えながら練習の後は反省会。ビールの酔いがまわるにつれ、神輿談義に花が咲く。

神輿のために練習までしている町会はそう多くない。「色んなところの神輿をかついでるけど、5丁目の神輿が一番だね。」立派な神輿だこのあるお父さんが、子供を膝にのっけてそうのたまう。うへん、頼もししい。粹でいい家庭的な祭の姿がそこにあった。



これもひとつの、即席みこし筋肉養成マシーン



ここは日本の三大やつちやば(野菜市場)のひとつだたでしよう。昔はみんな野菜かついで運んでましたから今の人とは力が違う。肩が違うよ。威勢がいいですよ。やつちやばの千貫神輿はもと二天棒でね、神輿の下、両側に体のいいのが四人入つて、さす(上げる)んだ。見事なもんですよ。1メートルばかりの大きなうちわでワッショイ、ワッショイと下から扇いでそれに合せて神輿を上げる。私も好きだから15のときからかついでたよ。親父の話だと明治の頃は直会(祭の後の宴会)がものすごく盛大でね。お祭やると問屋が2・3軒つぶれたんだつてよ。神社への奉納も、両手でも抱えきれない大きな飯台に野菜いっぱい盛つてね。とにかく市場は派手好きで身上潰すような馬鹿な祭やつたんだね。

問屋を2・3軒つぶした 千住の祭

元やつちやばの投げ師
河原町 井出欽三郎さん
(大正2年生まれ)



ちょっと昔の 粹 話



写真左、昭和初年頃の千住の祭。右は大正7年。



千住神社 宮司 渡辺孔夫さん (大正8年生まれ)
写真は昭和34年の大祭のとき

氣つ風のいい祭仁義のある祭

Senju-Machi- 千住探険

千住2丁目から ミリオン通り商店街 あたり

北千住駅西口から、南に向かつて数分歩くと、そこはかつて「掃部宿」と呼ばれた江戸時代の千住宿の一部。石出掃部亮吉胤が、今から約400年前(1598年)、広い荒川(現在の隅田川)の河原で湿地帯だったこの地の開発にあたり、「北千住」「中千住」「南千住」の呼び名が始まった。

掃部宿は明治4年にはもう少し南の河原町、橋戸町を含んで千住中組と改称される。余談になるがこのときの町名改正で「ミリオン通り商店街」とその周辺は、かつての賑わいは失ったものの、そぞろ歩けば何やら心惹かれる風景に多く出会う。

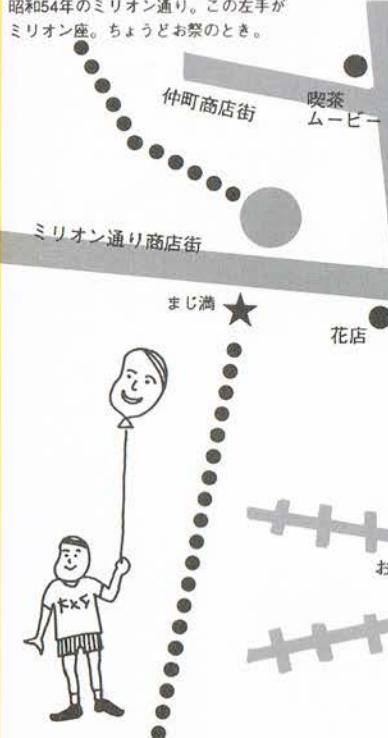


千住大橋の架橋工事にも協力した石出掃部亮吉胤。当時には珍しい長寿97年の人生で千住に残した功績は多大。

■千住ミリオンモーターブール ここにミリオン座があった。「昭和20年代後半に始めました。毎年相撲とりの吉葉山が豆まきに来たことを思い出しますね」と、もとミリオン座オーナー加藤つやのさん。



昭和54年のミリオン通り。この左手がミリオン座。ちょうどお祭のとき。



■まじ満 うな肝をつまみながら一杯やるには恰好のシビ大人の店。昭和31年からミリオン通りを見てきた。△11時~22時、第2・4日、第1・3日の翌日休、3888-4411



■夕方賑わう豆腐店と魚店
商店街から離れて賑わう2軒には、何かありそう。



■椿屋 2階
有機農法八百屋の2階で有機野菜を使った丁寧なお昼ごはんが食べられる。△11時半~2時、土日祝休、3870-8761



■旧日光街道(本町センター)
江戸時代、千住宿として栄えた街道の一丁目、二丁目部分。
古い店も残り、新しい空間もありで、今も賑わう商店街。



■千住2丁目の路地空間
ちょっと入りにくいや人のうちの裏庭のような狭い路地が、時間帯によって人の行き交う活滞道になる。

生活路として使われている不思議な町なかのエアポケット。
旧日光街道から路地に入ると突き当りに銭湯という心和む風景も…



■ときわ通り
平日の夜、大いに賑わう飲み屋横丁。安くて美味しい店を探してネオンの中を歩いてみよう。



■喫茶「蔵」
7~80年前に建てた質店の蔵をそのまま使った喫茶店。落ち着く。△10時~19時、日祝休、3882-0838



Senju-Machi 千住

■川魚問屋 鮎与 元禄時代（1688～1703）から続く老舗で、東京の川魚問屋の中で一番古いという。当時は魚をびくやざるに入れて隅田川につけ、川から運んでは売っていたとか。今も当時と変わらず忙しそうだ。

■森尻商店 戦中のままの正統派タバコ屋さん。でも売っているのは笑顔のいい若い女将さん。

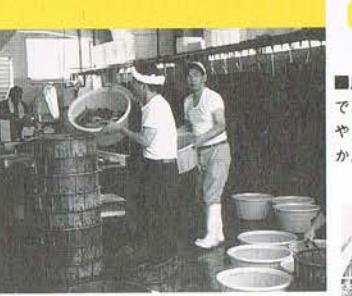


■石黒の船 尾張屋
「千住で100年くらいやってるの。この場所で50年くらい」と女将さん。量り売りで貰えるのが楽しい。

ミリオン通り商店街



■折鶴 路地横のチャーミングな和菓子店。散歩に歩き疲れたらここでひとやすみ。



■川魚問屋 鮎与 元禄時代（1688～1703）から続く老舗で、東京の川魚問屋の中で一番古いという。当時は魚をびくやざるに入れて隅田川につけ、川から運んでは売っていたとか。今も当時と変わらず忙しそうだ。

■森尻商店 戦中のままの正統派タバコ屋さん。でも売っているのは笑顔のいい若い女将さん。



■石黒の船 尾張屋
「千住で100年くらいやってるの。この場所で50年くらい」と女将さん。量り売りで貰えるのが楽しい。

ミリオン通り商店街



■仲町の路地

公園のそばに上品な古い日本家屋が何軒か残る静かな路地、トタン塀の続く路地がある。



■仲町の路地 住み心地良さうな石畳の路地に出会える…



そぞろ歩くと古いレンガ塀の家を見つめた。

■黒い3階建ての家 人気のない不思議な建物に興味を惹かれ裏に回ってみると「千世」(せんせい)と行灯に書かれていた。昔料亭だったのかもしれません。



千住 明治の女伝 心広きおしん人生

千住橋戸町

田辺たいさん

96才

14才で奉公に行つちやつてね。20才位まで、木挽町の料理屋さんでちょっと知り合のうちへね。子供が8人いらしてね。子供さんの世話をしたり朝は洗濯したり、そういうことをしたんです。夜は10時頃まで働いてそれからお風呂に入つて。その頃はみんなよく働いてました。つらいこと? 何も

なかつたですよ。楽しかったですよ。お嬢さんが毎日長唄習いに行くのについていつて、玄関で待ってるんですね。そのうち覚えちゃうんですね。おかげで長唄は今も好きですよ。

おこずかいは「御仕着」つていつてね、普段は皆さんのお下がりをいただいて着て



16才の頃。奉公先から御仕着でいただいた着物を着て。



現在の田辺家。幸せがあふれる...



横山佐吉さんにお話をお聞きしました。
呼び名は「こうほくさま」「こふくさま」等、家により違うようです。

らな子福さま。千住のあちらこちらにお出ましになった。

子福さまは千住の長円寺に住むというのが人の話だった。子供たちはその正体を見たくて、うっとうと茂る昼なお暗い中庭のほうをこわごわのぞいた。ムジナかイタチだろうと言う噂もあったが誰も見た者はいないという。大人たちは子福さまのいたずらが過ぎるようになると油揚げとお豆腐をお供えに行つた。

夜更かしをした夜、人の足音を聞いたことがあったとしたら、それはいたずら好きな子福さまかもしれません。明るくなつて出て行きにくくなった千住の町のどこかで今もそっと隠れておられるかもしれません。

表通りにカラシコロン、カラシコロン、下駄の音がするなりピタリと止む。すぐのぞいても誰もいない。

そんな不思議がおばあさんのそのまたおばあさんの頃からよくあったそうだ。それがいたずらやましいと感じさせる暖かさに満ちていた。

おこずかいは「御仕着」つていつてね、普段は皆さんのお下がりをいただいて着て

千住昔話 —子福さま—

ビルやら自動車やらのないずーっと昔…そう、昭和の初めの頃まででしょうか、千住には「子福さま」がおいでになりました。

シンと寒い冬の日、紙問屋の若いお嫁さんが赤ちゃんを寝かしつけてついウトウトしたときのこと、はいている足袋の先をクックッと引っ張るものがある。けとばそうとするけれど体は動かない。見ると戸戸が、スーパーバン、スーパーバンと行ったり来たりする。

表通りにカラシコロン、カラシコロン、下駄の音がするなりピタリと止む。すぐのぞいても誰もいない。

そんな不思議がおばあさんのそのまたおばあさんの頃からよくあったそうだ。それがいたず

るんですけど、盆と正月にウチへ帰るときにはあちらで着物こしらえてくれるんです。初めは木綿のもので、毎年いいものになるんです。お休みは年に2回つきやないんです。それで泊まれないんですよ。朝早く起きてウチへ帰つて9時までに戻らないと怒られちゃうんですよ。奉公時代から結婚生活、今まで、つらいことはなーんもなかつたと言う。一方、忙しくて遊んだり楽しいことなどは「おしんのよう」と言葉を張りたいだけ。淡淡と答えるだけ。淡淡と

お願い！その1千住応援会員になって！

町雑誌千住は、千住・町・元気・探険隊が母体となって発行されていますが、現在皆さんのご厚意とメンバーの出資とボランティアによって成り立っています。千住を愛する皆さんにも、ぜひ応援していただきたいのです。

購読 応援会員

年間3千円

(各号2冊・送料、手数料、
カンパ込み)

親しい方おひとりに1冊さし
あげてくださる応援会員

となり組 応援会員

年間6千円

(各号4冊・送料、手数料、
カンパ込み)

お隣の方など3人にさしあげ
てくださる応援会員

心意気 応援会員

年間1万円

(各号5冊・送料、手数料、
カンパ込み)

千住のためなら！ などな
どどんな理由でも歓迎！

●心意気応援会員は紙面でお名前をご紹介させていただきます。

●2口以上のご協力も歓迎します。 ●大口のパトロンも募集中！ ●500円からのカンパも大歓迎 ●少部数求めの方は別途ご連絡ください。

●会員になっていただける方はメンバーにお声をかけていただくかお近くの郵便局から下記振替口座までご入金ください。入金確認次第、会員登録させていただきます。名前、住所、電話番号のご記入を正確にお願いします。

お願い！その2大募集！

●スタッフを募集します！

経費も出ないボランティアスタッフですが、面白そう、と思う方、ご連絡ください。特に身軽に動いてもらえる人好きなスタッフを募集しています。▼取材にまわれる方▼写真を撮れる方▼MAC使える方、デザインを手伝っていただける方▼宛名書きなどのできる方▼配達できる方などなど…

●千住の面白いヒト、もの、こと、募集します！

●明治生まれの素敵な女性。特に恋愛経験を話してくださりそうな方。●千住の中の謎。●不思議に思っていたこと、調べて欲しいこと。●古い千住の写真をお持ちの方、ぜひ紙面掲載用に貸してください。●その他なんでも、千住の情報教えてください。

【参考文献】 足立区の文化財 足立区教育委員会 足立区立郷土博物館紀要 足立区立郷土博物館 足立の今昔 足立区役所 足立の史話 足立区役所 足立風土記 足立区教育委員会 江戸下町神輿 アクロス 江戸神輿春秋 大正出版 お祭りものしりガイド 日本交通公社 現代ニッポン祭り考 小学館 神事の基礎知識 講談社 千住宿民俗誌 名著出版 千住の名所 旧跡50選 (千住消防関係団体) 大東京神輿 (講談社) 東京都神社名鑑 神輿 (1) (刊行会出版社)

町雑誌「千住」(季刊) 創刊号 VOL 1 1996年9月14日発行

発行 千住・町・元気・探険隊 TEL 03-3870-7055

編集 町雑誌千住編集室 TEL 120 足立区千住元町14-18 TEL & FAX 03-5244-2158

編集人 大野順子 舟橋左斗子 (郵便振替口座) 00140-4-103836

STAFF 取材・原稿／小笠原真美 川上佳子 田辺一枝 穂原恵子 写真／長野高志 後藤修身

小林武仁 須藤尚俊 イラスト／遠藤杏子 高橋康子 MOMO MAC担当／村田操

協力／大野清士 鮫井博 能勢千詠子 原島陽子 山崎正樹

お葉書をありがとうございました！

町雑誌千住・創刊準備号を読んでいただいた皆様、お葉書をいただいた皆様、本当にありがとうございました！ お便りの中からいくつかを紹介します。

●昭和49年、23年間生活してきた文京区を離れ、千住に嫁いで今まで来ました。どこか暖かいのある町で大好きです。(千住竜田町 星野明美さん45才) ●学校では地元千住の歴史・文化・風土についてはほとんど教えてくれませんので、0号はとても勉強になりました。誌面に対する提案があるので動物、鳥、昆虫、植物など千住に残された自然を紹介するページを設けてみてはいかがでしょう。(柳原 水上博和さん11才) ●写真が多く楽しめた。写真を撮った場所の地図などが書かれていたらうれしい。(足立区佐野 和久井実佳さん23才) ●あまり下町らしさにこだわりすぎないでください。どのミニコミ誌も汚さが下町だと誤解しているようです。(千住河原町 佐藤達夫さん43才) ●はじめて東京に住むのに北千住を選んだ私はけっこう珍しがられます。でも私の目は正しかったようだ。(千住東町 伊井利洋さん24才)

これからもご意見、取り上げて欲しい話題、千住について思うことなど、楽しいお便り、厳しいご指摘をお待ちしています。アキタヤグループ様ご協力による秋の味覚プレゼントの抽選は10月に行います。お楽しみに！

誌面で紹介させていただいた方々、グループの皆さん、ご協力ありがとうございましたその他にも多くの皆さんのお力を借りました

写真・情報提供に、ご協力ありがとうございました！

千住のすべての神社様 千住のすべての町会、祭の会の皆さん

足立区役所広報課 足立区立郷土博物館 (株)足立都市活性化センター 石川カメラ店 石出通治 石原録郎 今井スタジオ 鈴木政夫 トリタイ畜産 ホシノ理容室 堀内延浩 柳下写真館 (50音順 敬称略)

●会員になってくださった皆様ありがとうございます！

町雑誌千住は会員の皆様のご支援により発行されています (五十音順・敬称略・紙面の関係上、心意気) 会員の方だけ掲載させていただきます

株 足立都市活性化センター	大河内渉	奥乃丸伸之助	お好み焼き美和
栗田田鶴子	酒のモトハラ	虎谷恭子	日本経済新聞千住専売所
長尾尚志	野田征子	北條隆司	堀内延浩
宮田昭明	宮元睦	(有)よしだや	若林登紀子

●町雑誌千住はここで買えます！

千住町	居酒屋地味一	千住旭町	太洋堂書店	松栄鮒	柳原	ティールームひなたぼっこ
松の湯	千住東町	カド・サン	横田青果店	ヘーサロンノヒラ	千住一丁目	前田クリーニング店
養生堂鍼灸整骨院	千住二丁目	柏屋	ブックスくまくら	ぶっくらんど	洋品ハセ	秋田料理まさき
千住三丁目	珈琲物語	渡辺優文堂	千住四丁目	酒の花栗屋	千住大川町	ホシノ理容室 お好み焼き美和
山口書店	千住寿町	小料理いろは	大国湯	千住元町	タカラ湯 モカ	千住柳町 一富士
キッキンアントレ	千住童町	アリス	大衆割烹つばめ	富井煎餅 肉の平川屋	千住中居町	北嶋書店
喫茶コロちゃん	千住宮元町	居酒屋せきね	高原書店	千住仲町	魚三商店	千住河原町 不動産のカサマ
千住橋戸町	甲斐書店	仁寿堂薬局 (漢方薬)	千住様町	美容室サロン・ド・ドル		

●この他にもあります。お問い合わせください。

●町雑誌千住を置いてくださるお店を募集します！ご協力いただけるお店はご連絡ください。

千住・町・元気・探険隊は、
足立区まちづくりトラストのご支援をいただき活動しています

Senju-Machi-Gene-Tankentai



場で旅気分満喫する為のとつての錢湯おきのところの一冊近づいて
たっかりのうれしめでたし錢湯めぐり
次号 (冬号) は
千住は東京きつの縁起の3拍子のいい、いい、いい、いい、いい、からだに
たつぱり錢湯。錢湯めぐりはややつぱり
冬はややつぱり钱湯。钱汤めぐりは
うれしめでたし钱湯めぐりは
次号 (冬号) は





北千住の駅からもすぐ近い、
荒川土手にはファンが多い。
サッカーや野球の練習も
金八先生の撮影も
もちろん花火も
いいけれど、

こんな素顔を知つてゐるかな？

朝6時頃土手にあがると
早朝とは思えぬすごい人。

地元のジョギングボーイ＆ガールたち。

季節のよい休日、土手に座つてひとときを楽し

む2人連れ。

聞いてみたら遠方の人だらけ。

千葉の彼女が新宿の友達と会う

ミーティングポイントになつていたりする。

秋の日の夕方、見晴らしのいい河原にモクモク
細い煙。

近づいてみれば七輪でさんまを焼く若い夫婦。
「これができるだけで千住に住んでよかつた！」

とっこり。

そして夜のぞけば寄り添うカップルたち：
空の大きな荒川土手の魅力は、

通る人により千差万別。

あなたの土手はどんな顔かな？

